

地租改正申請建議

特別

14

1919

816

60

55

50

45

40

14
1919
816

地租條例改正の請ふ建議

松坪等不肖の顧リミス茲現行地租條例中間墾及地租
变换の關スル條目ヲ改正スルノ必要ヲ感シ謹テ書リ

元先院議長大木喬任伯爵閣下ニ呈ス松坪等竊ニ惟
ルニ本邦例ト農ヲ以テ國ヲ立ルニ拘ラズ數百十年ノ久シ
キヲ經ルモ未タ著シク其ノ改良良進歩ヲ見ルハ蓋シ是
農民ノ資産ニ乏シキト其ノ進取ノ氣力ヲ缺クトニ原因
スト臣等亦以テ制度ノ完全ナラサルニ之ヲ帰セスレハア
ラズ抑々農業ヲ改進スルノ道タル固ヨリ一トシテ是ラ不
トモ此ヲ以テ機臨ニ變ニ應シ自由ニ適宜ノ計ヲ為ス利

便ヲ興フルガ如キモ亦タ一法ナリト信ズ例ハ時運ノ遷
移高況ノ變動由リ或ハ水田ヲ變シテ桑田ト爲ス
便ナル場合アリ或ハ桑園ヲ以テ茶園ニ充ルリ利ト
スル場合アリ或ハ更ラニ進リテ荒原ヲ拓テ適
宜ノ植物ヲ栽培スルヲ必要トスルアリ或ハ田圃
ノ區畫狹隘シテ改良機械ヲ用ヒ牛馬耕ヲ爲
スニ適セザルモノ其畦畔ヲ除キ其屈曲ヲ直クシ以
テ區畫ヲ擴張セザル可ク~~耕~~ルアリハク或ハ又
新ク堤塘ヲ築キ溝渠ヲ穿テ排水汰^シ施
シテ水利ヲ理メザル可ク~~サ~~ルアリハク~~皆~~無用荒瘠

ノ地ヲ賣シテ有用豊饒ノ地トナシ得利ノ産業業
ヲ祛リテ厚利ノ生産業ヲ成ルル道ニテ^テラサレハナ
ク而シテ之レヲ爲スニ當リテハ苟クモ國ノ公益ト私
人利益トノ妨害セザル限ハ容易ニ地目ヲ變
換シ随意ニ調整シテ企圖スルノ便ヲ興ヒ其旨キニ
從テ計畫ヲ爲スル可ク又夕之レト同時ニ其ノ
障礙ヲ爲スベキ者ヲ排除セザル可ク然ルニ現行
ノ地租條例ニ據ルニ地目ヲ變換スルトキハ其ノ大小ニ
拘ラス之レヲ地方廳ニ届出テ其地ノ現況ニヨリ
地價ヲ修正スルヲ要シ調整ヲ爲サ下スルトキニ

必不先ツ地方廳ニ願出テ其許可ヲ得ル可
ク夫將々又一ニ開墾士ニテ第一種ニ編入スル時後
ニ地味不良ナルヲ覺リ再ニ第二種ニ編入セントス
ルニ能ハズ緻下年季中ノモノト雖モ當初ノ目的ヲ
改ムルトキハ是レ又由出テサルヲ得ル等ノ條同アリテ
ト三背戻タル者ハ各其四割アリ其ノ煩雜ト宜ニ釐清リ可キ
者アリ必竟政府ノ斯ル條例ヲ設ケルシタル地目ノ交換
ニヨリ損失ヲ蒙ル者ニ免稅若クハ減稅ノ特典ヲ下シ
以テ民ヨリテ寬仁ヲ澤ニ浴セシメ又新夕ニ利益ヲ起シ
モノニハ租稅ヲ新課シ若クハ増課シテ人民ノ義務

ヲ尽サシメ以テ租稅ノ標準ヲ謀ルト同時ニ地目交換ノ宜
地ノ租額ニカキ如キ弊ヲ力ラシメテ深意ニ出ルモノ
ナラント必其手續ノ極メテ簡素ニシテ人民ハ政府
深意ノ在ル所ヲ覺ラザルニシテ又開墾及ビ地目交
換ハ容易ニ爲ス可ク凡レ者ト信シ損益ノ如何ニ
關セズ僥倖現在年終ニ出シテモ毫モ改進ニ急ム
注カレノ實際ナリ是レ蓋シ人民ノ頑愚ナルニ因ル
ト是レ抑ハ又々開墾地目交換ニ關シテ制度宜
シキヲ得ザルニ由ラリテ又是レ皮相ヲ考フニ開墾士若
クハ地目ノ交換スルノ際由出西若クハ願出ニ為ラガ

如キ事其ク容易ナレガ如シト雖モ其實際ニ就テ之
レヲ見ルハ沃シク然ラズ先ツ願書ヲ認メザル可
クザルハ勿論大量圖沿岸四地價修正表ヲ調製ス
ルニ始メトシ地券書替製手續製敷料ニ取實地ノ
検査受書ニ至ル迄ノ手續ヲ経テ或多ク時日
ヲ費スルヲクシバ全ク其事ヲ果ス能ハス其ノ手
敷ノ懸念解スル尙外者皮相ノ推察ノ能リ及フ所ニ
カレテリ蓋シ小民ノ事情トシテ能ク及ブ所ニ
彼生死係ノ如キ人ノ大事ニ関スルモノニシテ一
ノ文書能ク其事ヲ辨スル者スラ尙ホ目ツクシ
急リ往ク法ニ觸ル者アリ次ニヤシトモり或チ層層
縛ノ手續ヲ要スル者ニ於テガヤ去レハ押罫ノ如キ其
許可ヲ得ルハニ多クノ時日ヲ要スルガ爲メ農閑ノ時
機ヲ失シ家ニ着手スル能ハスレテ止リモノ往ク之
レアリ又チ農家ノ實際ノ案スルニ試験ノ爲メ假リ
地目ヲ変更シ詳ラキ其得失ヲ案ス然ル後効多
地目ヲ確定セント欲スル者甚ク多シ然ルニ其ノ変
換ニ懸念解ノ手續ヲ要スルハ故ニ之レヲ憚リテ
初メヨリ試験ヲ心懸キザル者殆ク皆ナク是レナリ
而シテ是レ現行制度ノ然ラシムル所ナリトモ
松坪ホハ

勢と其ノ改正ノ其動王セウリヲ得ス蓋シ政府開墾ノ利便
ヲ小民ニ與ヒ之ヲ爲メ小民ノ土地ヲ開墾スルヲ得ルハトテ
左ノ如ク大利益ト謂フニ可ク然レガ如クナリト云ヒ之レリ
通算シテ其利益ヲ合計スレバ決シテ大利益ト謂フヲ
得ス例ハハ茲ニ一村十名ノ農夫アリ耕耨ノ餘暇山野ヲ
開墾シテ名一畝アリ種リモノト假定セバ百々村ニテ拾所
家ナク村ニシテ百所あり良田ヲ得ヘシ其利益豈ニ鮮
少ナクヤ現ニ松坪等ノ開墾所ニ擾ルニ先般未施行
凡地ヲ檢査シ由リ各村共概テ皆ナ其ノ地租ヲ増加セ
リト是レ其原因ニシテ是ラカルベキモ松坪ホ安業也

地租改正以後且ウリ従前ノ慣例ニヨリテ額面ヲ西々又
随意ニ山野ヲ開墾スル畦畔ヲ掃除シ或ハ畑地ヲ水田
ニ交換スルハウ許シタル爲メ小民便ヲ得テ次第ニ小民ノ開墾
ニ着手シタル者漸ク積リテ此ノ成亦テ来シタルニ職由又
バシハアリ又手教、繁榮簡ニヨリテ農業ニ盛衰ヲ生スルハ
推シテ知ルベキナリ然レニ自今地租條例ヲ実行シ徹ニ遺法
者ヲ審分セラル、至ラズ人民假令ニ某地ヲ開墾シ
某地ヲ墾換スルニ利益ト信スル又其ノ如スル所ノ利
益ノ較々僅ナラニ場合ノ額面等繁澁ノ手數ヲ
憚リテ着手ノ念ヲ勒止スルニ至ルベシノ隨テ小民

ノ開墾を奨励地ノ跡ヲ絶ツニ至ルハク 随テ小作ノ開墾ヲ奨励
也又畦畔廢除區畫擴張ノ如キモ 行ハサルニ至ルハク又々延
ラ地租ヲ減スルノ影響者ニ生スルハキニ 必然ナリ果シテ然ルトキハ
上ニ農業ノ改進ヲ企圖セラルル政府ノ 方針ニ背キ下ニ農民ヲ
シテ進取敢為多ク挫折セシレルノ 弊ヲラシ故ニ夫カ地租
條約中開墾を奨励等ノ條目ヲ改正セラシムル 數ノ~~後~~開
墾を奨励限リテハ別ニ奨励ヲ要セズ直ニ着手スルハリ
許シ去々年乃至八ヶ年毎ニ出シレルハトナサバ 官民共ニ
大ニ手數ト費用トヲ減シ小民ニ大ニ便ヲ得テ 開墾其地
農事ノ改進ニ從事スルハク 數年ヲ出スルニ至ラば農業ノ面目

ヲ一新シ大地租ヲ増加スルノ 利益ヲ生スベシ此ニ至リテ
政府ノ大趣者又々初テラ道 徹スルハク得バキナリ~~其~~其
言辭ノ是ラサルヲ補ヒ微意ノ在ル處ヲ洞察シテ 其ノ非
言ヲ採納スルニシテ 其地租等 誠恐其惶懼ノ至ニ堪ヘズ

地券取扱順考及登記法ノ改正ヲ望ム建儀

不肖招坪等種々多岐に及ぶ地券ノ制々此土地所有ノ權
ヲ定メ其典賣ノ約ヲ執筆固ナラシムル於テ實ニ未嘗有
ノ良法典ナリト雖モ取扱順考ノ考々々固シキヲ得サレ
ヤ往々租漏ニ涉リ騙詐ニ陥ルル弊アリシ免セシム量
キニ政府登記法ノ新制ヲ設ケラシムル所以者モ畢竟
此ノ弊ヲ防リテ租額ノ外ナラザルハリ申意ノ周到ナレ
石坪等ノ誠ニ感佩スル所ナリトス惟ク此地所有ノ權ヲ明
カシテ其賣ノ約ヲ執筆固ナラシムルハ財產ノ安固
ヲ謀ルニ欵奇ナクハ所ナラズ然レモ其ノ方法ニシテ

複雑繁冗ニ失スルが如キヲ之弊ヲ未萌ニ矯メシテ欲スル
ノ良美旨モ為シ母貫徹セカレキ事情ヲ能ハスル
登記法氣ノ如キモ其等ノ見ル所ヲ以テスレバ
憾々非ス人々夫レ公債證書ヨリ銀行其他ノ
券状ニ至ルマテ之ヲ典賣スル為テ自カク其法見
ハ論スルヲ得サズ別ニ繁雜ナル手續ヲ要スルニ非
ス獨リ地界ノ至ラ四半箇ノ手續ニ依ル
能ハルハシク之ヲ重視スルニ失スルノ嫌ヒナキ
平現行地所典賣ニ関スル取極順序ヲ察スルニ必ス
二重ノ煩ヲ執ラサル可ラザルヤ如シ況ンヤ其實際ニ

煩雜ナル手續ノ複雑繁冗ニ過テ却テ実行ニ苦ムモ
ノハ之於テオヤ為ニ金融ノ道ヲ沮滯シ隨テ是
業ノ登達ヲ妨グルニ至ル其動モスレバ苦情ヲ唱ル
モノアル高直モ異ハシ是ラナリ今試ニ現行ノ手續
ヲ列挙スレバ尤ノ如シ

以上ノ手續ヲ要スルニテ又白長没場登記所及
郡區役所ノ向リ奔走シ其ノ自ラ奔走スル能ハル
者ハ他人ヲ雇フ之ヲ并セシテサレ可ク又之ニ寄ルル
ノ費及登記料地界換或ハ裏書料等ノ
費額シヨルルハ山野小安ノ地ヲ典賣スル於テ

實に其地れ全り多クモ、凡そ其地を以て其の
方法自宜しキ
ヲ得サルニ故、意外ノ結果ヲ考夫スルニ、アラスカヤ、死
別之ヲ如何也、前ニシテ他ナシ、登記法ヲ改正シテ、地
ニ関スル登記ヲ廢シ、其ノ賣買ノ權ニ抵テ、
等ノ手續ハ公債證書及諸会社株式ノ取極準
ニ

明治廿一年 晚春

春成主人稿

